

ナシ黒星病の秋季防除情報

平成29年10月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ナシ黒星病の伝染源量を減らすため、落葉を適切に処分しましょう。

1 発生状況

9月下旬に行った巡回調査（32ほ場調査）では、発病葉率が3.0%（平成28年1.3%、前年2.7%）で過去10年と比較して2番目に高い状況でした。

2 防除対策

- （1）翌作の黒星病の第一次伝染源は、主に発病落葉及び年内中に発病葉から感染したりりん片病斑です。
- （2）秋型病斑を形成した発病葉（図）や秋に二次伸長した枝の葉に発生した春型病斑は、見つけ次第除去しましょう。また、落葉は、集めてほ場外に持ち出す等、適切に処分しましょう。
- （3）10～11月は本病原菌の感染適温（15～21℃）の時間が長く、また、ナシの花芽内部が肥大し、りん片組織が露出するため、感染しやすい時期にあたります。りん片への感染を防ぐため、収穫後から落葉期において、表を参考に防除を実施しましょう。
- （4）収穫を控えているほ場がある場合、農薬の使用にあたっては、収穫前日数に注意しましょう。
- （5）スピードスプレーヤーで防除する場合、薬剤がかかりにくい場所は手で散布するなどして、かけ残しがないようにしましょう。
- （6）耐性菌の発生を防ぐため、FRACコードが同じ農薬を連続して使用することは可能な限り避け、秋季防除を行いましょう。

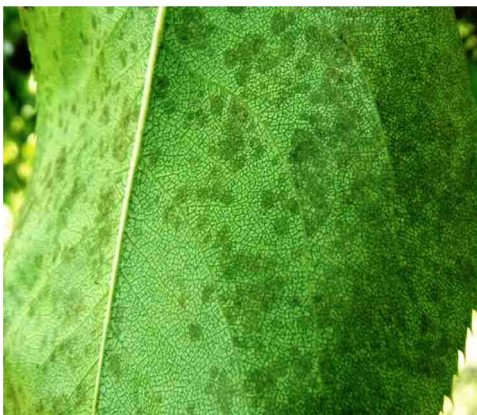


図 黒星病の秋型病斑
(葉裏の黒いしみ状の病斑)

表 ナシ黒星病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	系統	FRACコード
ICボルドー48Q	収穫後～開花前	無機銅	M1
オーソサイド水和剤80	収穫3日前まで	有機塩素	M4
オキシラン水和剤	収穫3日前まで	有機塩素、有機銅	M4、M1
オキシンドー水和剤80	収穫3日前まで	有機銅	M1

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示します。

FRACコードの詳細は、<http://www.jfrac.com/fracコード表/> を御覧ください。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。